

P214a **MOA-IIによる系外惑星探査：2013年の経過報告**

住 貴宏 (大阪大学)、MOA コラボレーション

我々Microlensing Observations in Astrophysics (MOA) グループは、ニュージーランド南島、マウントジョン天文台で重力マイクロレンズ効果を利用して系外惑星の探査を行っている。専用 1.8m 望遠鏡の 2.2 平方度と言う広視野を生かして、銀河中心領域の星約 5 千万個を 1 日 10-50 回と言う高い頻度で観測を行っている。マイクロレンズイベントの増光期間は、レンズ天体の質量の平方根に比例し、普通の星で 20 日程度だが、木星質量の天体の場合 1 日程度、地球質量程度の惑星では数時間と非常に短いので、この様な高い頻度での観測が必要不可欠である。また、1つの望遠鏡では 24 時間カバーできないので、データをリアルタイム解析し世界中の追観測グループへアラートを出し追観測をする事が必要である。2013 年シーズンも順調に観測が進行しておりいくつかの惑星候補を検出している。本講演では、2013 年シーズンの観測の途中経過を紹介する。また、NASA の広視野近赤外衛星計画 WFIRST によるマイクロレンズ系外惑星探査のイベント期待値について議論する。